

前回までの議論の振り返り

令和7年10月16日

こども家庭庁
成育局成育環境課

● 第18回までのこどもの居場所部会においていただいた主なご意見①

①「ユニバーサルな居場所の意義・役割等」について

【若者の居場所の意義・特徴・課題】

- 広い意味での若者の支援というものを考えていく上で、「支援」、「ユースワーク」、「余暇」などの共通のキーワードは幾つか見えてきているが、その分野の人同士がつながったり、施策につなげていくときに、どういう言葉でその領域を表現して名乗っていくかという問題がある。
- 居場所づくりの方針は非常に幅が広く、どういうこども・若者に対しても適合するような、そんなつくりになっていたかと思うが、若者の居場所づくりというものを進める上では、例えば少し論点を絞って、人の輪とか、地域のつながりとか、あとは支援とか、何か少しテーマがあったほうが論点の整理としてしやすい。
- 居場所づくりにおける「若者」とは何なのかとか、こどもではない若者の居場所とは何なのか、その中で、支援という視点が非常に大事だと思うが、支援が必要のない若者を含めて、どういう居場所が必要で、個人、支援団体、公的な団体も含めて、それぞれの居場所づくりで果たす役割は何なのかについて議論ができると良い。
- ヨーロッパでは学校に行けないとか、家が経済的に厳しいという人であっても、地域のスポーツクラブではヒーローになれるといったことがあったりして、様々な文化活動に触れる、公的なサポートに触れることができるが、日本では学校に行けていない子は部活動だけをしに来るのは駄目だと言われたり、あるいは休日の文化的な活動、習い事、塾なども経済的な事情で振り回される。勝ち組がどんどん勝ち組になる、負け組はどんどん負け組になるという、逆進性を帯びている放課後、余暇の時間なのではないかと課題提起をする。
- 人生の寄り道をするような場所を中学生・高校生の間につくるといいのではないか
- 民主的な体験や経験を居場所の中でするという話があったが、まさにそういった自治性を学ぶという、こどもの自治の場としての居場所も考えて取組をしている。
- 意見反映施策にばかり目が行ってしまっているが、社会参画の推進という取組の拠点として、居場所はすごく大事な論点である。
- 自己決定とか自己選択を徹底的に認めるということは共通していて、そもそもそこに行くかどうかは本人が決定することである。
- 先ほどの遊びや参画も、元を正せばこどもの権利条約の理念をどれだけ実現できたかという具体的なテーマだといえる。こどもの権利条約の理念が、居場所の中でどう位置づけられ、具体的にどう進み、今、何が課題になって出てきているのかという大本のところが重要。

● 第18回までのこどもの居場所部会においていただいた主なご意見①

①「ユニバーサルな居場所の意義・役割等」について

【若者の居場所の設置・運営上の注意点等】

- 大人たちが強者でこどもが弱者だと思っていなくても、権威性はやはり帯びる。
- 難しいのはやはり「相談」という形で明確に出してしまうと、「いや、ちょっと自分は・・・」と引いてしまう人がいる。ただ、潜在的にはやはり話したいと思っている人もいる。
- ケアと居場所のつながりを考えることは重要。ケアにつながらない居場所だと、どうしても袋小路になってしまうことは往々にしてある。
- 仲間づくりだったり、体験活動だったりに参加できないこどもや若者と向き合って、分かる、頑張ったねと言ってあげることが大事。頑張れではない。
- 世代で分けるという発想自体が実は大人の発想であって、小中高生という区切りもなく、地域の中で過ごしている人たちの居場所を考えることが大事。
- まずこども・若者は交通弱者であるということも踏まえなければいけない。
- 行政だけでなく民間企業や多様な主体を巻き込み、連携しながらこどもたちのための居場所を創出していくことの重要性を強く感じている。
- 部活動の地域移行が進むことで、中高生が主体的に学校外に居場所を見つけていくような流れ自体は非常にいい流れだと思うが、地域資源の偏りなどもあって、住む場所によっては放課後の居場所がない。
- そもそもそこにいるだけで参加している状態ではあるが、参画を促進させる人の存在が私たち大人の支援者の役割と思う。

● 第18回までのこどもの居場所部会においていただいた主なご意見①

①「ユニバーサルな居場所の意義・役割等」について

【制度・政策上の留意点等】

- 居場所の成果みたいなものに私も随分苦しめられてきた。就労支援や、困難を抱えたこども・若者支援は、大体みんな必要だよねと言ってくれるが、そうした課題設定が前面に出ていない居場所であっても、本人はただ遊びに来ているつもりであっても、継続して通う中でいろいろと良いことがあるのだが。
- こどもたちにどうなって欲しいか等の支援者側の意図をどこまで表に出すのかが非常に難しい。意図を明らかにすることでこどもから見た時の居場所の魅力が低減することもある。
- やはり投資すべきは箱ではなく、人であり、文化醸成なのではないかと考えており、こども場所だけつくればいいという問題ではないのだろう。
- 中高生の居場所がないと言っているから1個はつくろうみたいな感じになっていくと、アクセシビリティの問題とか、いろいろ居場所は自分が選ぶものだということとか、そういうことがちょっと落ちていってしまう。
- 公民館や図書館の活用とか、居場所における交流の機能とケアの機能をどうつなげていくことができるかなど、どのように地域全体をコーディネートしていくのかという問題意識が浮かび上がってきた。
- 政策立案をしていく中で、ではどの部署にどういう予算措置で立案していったらいいのかというのが、やはり守備範囲が広がれば広がるほどちょっと難しいなというのが感想。
- （こどもの居場所に関する評価指標は）今年、若者を議論する以上、学齢期のこどもにこだわらず、使ってもらえる指針になるので、都道府県にも役割があり、指標を使ってもらえることが必要だという認識を持っていただきたい。
- 自治体において若者の居場所づくりは遅れているように感じている。児童福祉の枠組みは、児童福祉法により18歳未満までとしているようなものが多かったり、成人年齢の引下げなどから、自治体の中で、若者の居場所づくりは、こども部署で取り上げなかったり、成人向けの制度との間でのグレーゾーンになってしまったりという現状がある。

● 第18回までのこどもの居場所部会においていただいた主なご意見②

②「進学等の環境変化があっても、切れ目なく居場所に繋がることのできる工夫」について

【若者期の特徴や、必要な支援に繋がれない「支援の空白」が生じる理由】

- 居場所をつくろうという議論と同時に、なぜこんなにこども・若者が居場所を失っていくのかとか、居場所からいなくなってしまうのか、阻害要因を改めて考えたい。
- 「何に困っている」のか、「自分の限界がどこか」が分からず、無理をして部活などをやっている若者がいる。困りごとを周りと共有できず、体に出てしまう傾向が強い。背景の1つには、コロナ禍によって中・高時代の友人関係が希薄になり、集団での経験や生の体験が減少していることが関係していると考えられる。
- （大学の3・4年生の時期は）大学という枠や守りがなくなり、自分1人でやっていかなければならない時期。自立に向け自分のことや家族の問題に直面し、それに伴い不安定になり、相談する場を求める学生がとても増える。
- 小学校、中学校、高校のどこかで大事な関係を持てた場合は、本当にその後が全く違う。今後の課題として、各年齢における支援を生かして、切れ目のない連続性のある支援が今後一層重要になるのではないか。
- コロナの影響が随分と心理相談でも出ているというお話もありましたけれども、コロナ禍を経験したというところをもう少し解像度を高めて表現すれば、自分のことを一切知らないような集団に入っていって、何か楽しかったとか、何か自分が出せたという「アウェー体験」が少ないのではないかと思う。
- 目まぐるしい変化に追いついていけないというか、準備が間に合わない子たちが再び僕らの場所に戻ってくるみたいなこともあったりする中で、もうちょっと緩やかに、自分たちのペースで社会に出ていくことはできないか。

● 第18回までのこどもの居場所部会においていただいた主なご意見②

②「進学等の環境変化があっても、切れ目なく居場所に繋がることのできる工夫」について

【必要に応じて居場所につながるための方策】

- ・ 乳幼児期だと、居場所からつなぐ利用者支援員という人たちが、ポピュレーションアプローチをしている。ある程度公的なところにぐっと入って介入していくとなるとハイリスクなんだけれども、その手前のポピュレーションのところでどういうふうにつないでいくかというのは結構大事なのかなと思っている。
- ・ 児童館とかこども食堂を巡回して、そこでちょっと気になるな、心配だなと思うけれども踏み込めないでいる、そういう相談を拾いにいっている。
- ・ 行政のお墨つきで個人情報の共有の許可を得て柔軟に動けるということがないと、ただの聞き役になってしまう。
- ・ 政策立案をしていく中で、ではどの部署にどういう予算措置で立案していったらいいのかというのが、やはり守備範囲が広がれば広がるほどちょっと難しいなというのが感想。（再掲）
- ・ 小学校、中学校、高校のどこかで大事な関係を持てた場合は、本当にその後が全く違う。今後の課題として、各年齢における支援を生かして、切れ目のない連続性のある支援が今後一層重要になるのではないか。（再掲）

● 第18回までのこどもの居場所部会においていただいた主なご意見①

③「こども・若者施策におけるオンラインの意義・役割」について

- ・ 明るい昼間の居場所、夕方までの居場所に来られない子たちの居場所も欲しい。
- ・ 今はいろいろな民間事業者や個人がつくったオンラインの居場所もある中で、どうしても危険な居場所も多くある。一方で、行政がオンラインの居場所をつくっていくのは、まだあまり事例もないように感じている。だから、そこをどういった方針でやっていくのかといったところを話し合いたい。
- ・ 今後、コロナのように、またパンデミックのような事態がいつ起こるか分からないというようなことを私たちは経験している中では、オンラインの居場所のガイドラインとか、そういったものがあれば、今後、オンラインの居場所が充実していくと思う。
- ・ 居場所を一から作り上げていくことは大変だが、オンラインもそうだと思うが、今、既にこども・若者の居場所になっているところにもっと居場所という意識をしっかりと定着させていくことで、こどもに還元されることもきっとあるのではないか。